

指導と評価の一体化を図り、育成すべき資質・能力をはぐくむ

学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、**教師が指導の改善を図る（授業改善）**とともに、**児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする（学習改善）**ことが大切です。

指導と評価の一体化を図るとは

指導 ←→ 評価

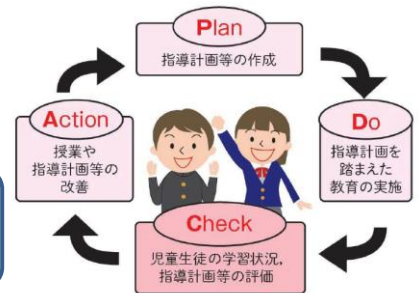
学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することです。

目標<P> 身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像を明らかにする。

指導<D> 目標達成に向け、児童生徒の実態に応じた指導の工夫や支援を行う。

評価<C> 具体的な児童生徒の姿から目標が達成されたどうかを明らかにする。

<A> 「努力を要する状況」への指導の改善を図る。



※ 学習評価の在り方ハンドブック(文部科学省)

1時間の授業の中で、「目標」「めあて」「振り返り」「評価」に一貫性はありますか

小学校3年算数「あまりのあるわり算」 ※ 学習指導案ハンドブック(京都府総合教育センター)

<本時の目標>

日常生活の場面に応じて、余りを切り上げて答えを求めることを、図や式や言葉を用いて説明することができる。

<学習問題>

35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんながすわるには、長いすが何きやくいりますか。

<めあて>

「みんながすわるには、あまりをどうすればよいのか考えよう。」

学習のめあては、**児童生徒が主体的に学ぶために**、本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示します。

<学習の振り返り>

今日の学習を通して分かったことや、友達の考えに納得できたところ等を「あまり」という言葉を使って書く。

<本時の評価>

「おおむね満足できる」と判断される状況

余りを切り上げて答えを求めることを、図や式や言葉を用いて説明している。【思考・判断・表現】

「十分満足できる」と判断される状況

余りを切り上げて答えを求めることを、**図と式と言葉を関連づけて**説明している。

単元全体の指導計画に基づいた1時間の目標と評価の設定となっていますか。

授業づくりでは、子どもの思考の流れに沿った展開が大切です。また、子どもの反応を具体的に予測し、個への支援や指導の手立てについて事前に考えておくことが大切です。

「より深く」や「より詳しく」といった抽象的な表現は避け、「おおむね満足できる」と判断される状況に**何が加われば、質的な高まりや深まりが見られる状況なのかを具体的に想定して記述**します。また、授業の中に「十分に満足できる」と判断される状況が生まれる指導や手立ても必要です。

資質・能力の育成

学力向上につながる取組～学校訪問等を通して～

① 調査結果の分析を授業改善に生かすシステムの構築

調査結果は子どもの声であり、授業に対する評価
授業改善の視点も明確になるチャンス

② 教師一人一人が

自分事となる校内研修、授業研究会の実施

調査結果の分析(成果や課題)を職員で共有する。

成果や課題から授業改善の視点や取組を焦点化する。

授業で意識することが明確になる。

授業が変わる、取組に価値が生まれる。

全教職員で

組織的に取り組む

学力向上につながる。

さらに好循環のサイクルを回す

③ 授業改善の視点は単元構想と課題解決型の学習

◆ 単元構想で大切にしていること

- ・ 学習指導要領の指導事項を踏まえた目標の設定
- ・ 指導と評価の一体化を意識した単元構想
- ・ 評価規準の具体化(ABCの具体的なイメージ)
- ・ 各学力層を意識した1時間1時間の課題や手立て

◆ 課題解決型の学習で大切にしていること

- ・ 課題の設定、提示の仕方工夫
- ・ 課題の繰り返し(子どもがやってみたいと思う課題の検討)
- ・ 見通しの共有(子どもと)

課題解決型の学習に取り組ませるには、子どもが課題解決に使える知識・技能を着実に習得していることが大切です。

④ 中学校ブロックにおける小中の接続

校種や担当が変わっても子どもが戸惑わないための接続

小中9年間で育成したい資質・能力を踏まえた接続

(教育課程、児童生徒の実態(学力面・生活面)、人間関係等)

調査結果の分析を授業改善に生かすシステム



学校訪問等を通して、成果を挙げている学校の取組にはいくつかの共通点が見られました。キーワードは「**システムの構築**」、「**校内研修・授業研究会**」、「**授業改善**」、「**小中の接続**」の4点です。自校の学力向上の取組を振り返り、見直しや改善を図るヒントにしてください。

Name